

科技高 いきもの記

Vol.39 2021.10.6

下山田樹

鳥好きが増えてくれたらいいなあ バードウォッチングのすゝめ

様々な環境に生息する鳥たち（ルリビタキ以外は葛西臨海公園で撮影）

【森林】



愛知県で撮影（冬）

ルリビタキ（スズメ目ヒタキ科）



（春）

オオルリ（スズメ目ヒタキ科）

【池や湖沼】



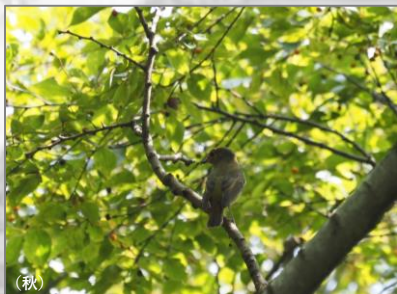
（冬）

カワセミ（ブッポウソウ目カワセミ科）



（春）

キビタキのオス（スズメ目ヒタキ科）



（秋）

キビタキのメス（スズメ目ヒタキ科）

【干潟】



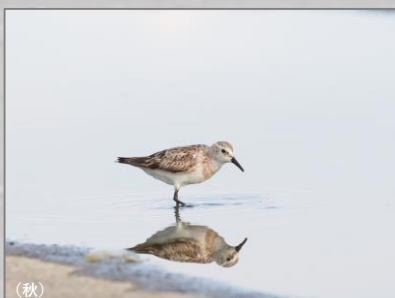
（春）

セイタカシギ（チドリ目セイタカシギ科）
絶滅危惧II類（VU）



（春）

ソリハシシギ（チドリ目シギ科）



（秋）

トウネン（チドリ目シギ科）

僕は虫が好きだが（とくにハチ）、鳥も好きだ。よく近所の公園や旅行先では鳥の写真を撮りに行っている。もっと鳥好きの人が増えてほしいなあいつも思っている。この学校で、バードウォッチングをしたことがある人はどのくらいいるだろうか？そして、つまらないと思った人はいるだろうか？つまらない理由は、同じような種類で、なおかつよく見かける種類が多いからだろうか？そんな飽きてしまった人もこれから始めてみたいという人にも**オススメの時期と探し方をいくつか紹介する**。だから今回はいきもの記というより学問のすゝめのような感じである（そんな偉い事は書けないけれど）。

まず**1つ目は時間帯だ**。早起きは三文の徳という言葉がある。まさにこの言葉は鳥を見る時に当てはまる。ほとんどの鳥は昼行性だが、特に早朝は観察しやすい。というか、朝の10時を過ぎる頃にはほとんど見れないくらいだ（もちろん例外もあるし餌付けされた鳥はよく出てくる）。これは人が少ないのと天敵が少ないからだろう（多分）。

2つ目は時期だ。多くの種類を都市公園などで見たいなら、夏鳥及び旅鳥（シギやアジサシ、ヒタキ、猛禽類など）は4月中旬から5月頃と9月頃、そして冬鳥（カモやツグミ、ヒタキなど）は冬がおすすだ。

そして**3つ目だが**、ここで少し寄り道して鳥見のマナーについて（あくまで参考程度だけ）紹介しようと思う。野外活動での基本的なマナーを「フィールドマナー」と呼ぶ。日本野鳥の会では「**や・さ・し・い・き・も・ち**」の7文字からはじまる標語を提唱している。だからそれを参考にさせていただきたい（下記参照）。寄り道はここまでにして、**3つ目は探し方である**。森や林のなかで目を使って野鳥を探すのはなかなか難しいものだ。そのようなときは、**声を頼りに探す**のが近道である。まずは、耳を澄ませ、野鳥の声を探してみるのがいい。そして、声が聞こえたら、その方向をよく見てみる。声がる場所を根気よく見てみると、**木の葉や枝のわずかな動き**や、木々の間を動く**野鳥のシルエット**が見つかることがある。それに春は木の天辺で鳴いていることも多いため見つけやすい。冬はシジュウカラなどの鳥の群れを探すと良い。中にはエナガやコゲラ、ルリビタキや他のカラ類が混じっている（混群とよぶ）。だが、干潟などでは目視で探すことをお勧めする。なぜならシギなどの水鳥は鳴き声での識別より目視での識別の方が正確でなおかつ見つけやすいからだ。鳥探しに慣れてくると、そのうち勝手に鳥が見えてくるようになる。

もう秋の渡りは過ぎてしまったが、これからは冬鳥の季節だ（まだ少し早いけど）。近くの公園でも意外な出会いがあるかもしれない。さあ（スマホではなく）双眼鏡を持って（ポ○モンではなく）鳥探しに出発だ！

バードウォッチングのフィールドマナー「**や・さ・し・い・き・も・ち**」

- や 野外活動、無理なく楽しく
- さ 採集は控えて、自然はそのままに
- し 静かに、そーっと
- い 一本道、道からはずれないで
- き 気をつけよう、写真、給餌、人への迷惑
- も 持って帰ろう、思い出とゴミ
- ち 近づかないで、野鳥の巣

日本野鳥の会「バードウォッチャーの心得」より引用